

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>国道に面した大きな施設の一部にある2階建ての設備の整った家屋である。バックには病院、特別養護老人ホーム、ケアハウスなどが存在し、状態の変化などに応じすぐに対応できる恵まれた環境にある。調査訪問時に入居者の表情がのびのびして明るく、職員とおしゃべりを楽しんでいた。自分のできることの担当があり、個々に自分らしい生活スタイルが築き上げられている。管理者を中心に良好なチームワークができており前向きな取り組みが感じられる。前回の外部評価での要改善点についても、職員全体で積極的に改善の取り組みがされていた。</p>	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I 運営理念	要改善点は特になし。母体法人は福祉事業の老舗として地域の知名度は高く歴史もあるため、運営理念は管理者をはじめ職員全体に深く浸透している。「一人ひとりを大切にしたい質の高いサービス提供」の理念のもと入居者本位の暮らしの継続を支援している。
II 生活空間づくり	要改善点は特になし。バリアフリーになっており手すりも多く入居者が安全に生活できるようになっていて、共有のスペースも比較的広くゆったりしている。職員の手作りのクリスマスの装飾が季節を感じさせ、よりいっそう和ませている。2階にも、イス、テーブルなどが設置され自由に過ごせる。快適な生活空間を作り上げている。
III ケアサービス	熟練されたスタッフが配属され、ケアにあたっており、一人ひとりの入居者に合わせて、自然な流れで対応している。訪問時には入居者が里芋の皮むきを何人かできていたが、やれることの喜びの機会をつくり生き甲斐を見いだしている。個々の介護計画においては、良くできているが家族の意見を十分に引き出すよう努め、反映させることにより、さらに「その人らしい暮らし」を支援するケアサービスを構築してほしい。
IV 運営体制	サービスの向上に向けた取り組みや具体的な考え方が示され、長年の介護現場だからこその気づき、工夫している事柄の集積がある。一方、職員の負担も大きいことから、人材確保と職員の勤務時間の軽減が必要であるとホーム自ら課題としている。今後の改善に期待したい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数
		外部評価
I 運営理念		
① 運営理念	4項目	4
II 生活空間づくり		
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
III ケアサービス		
④ ケアマネジメント	7項目	5
⑤ 介護の基本の実行	8項目	8
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10
⑦ 生活支援	2項目	2
⑧ 医療・健康支援	9項目	9
⑨ 地域生活	1項目	1
⑩ 家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制		
⑪ 内部の運営体制	10項目	9
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	1
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3
⑭ ホームと地域との交流	4項目	2

2. 評価報告書

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			理念は明文化されている。また、毎年度初めに基本方針・重要目標をたて介護方針の統一と共有化を図っている。新人研修などでは、理念を書き入れる試験を実施するなど、徹底している。	
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			理念である「一人ひとりを大切にしたい質の高いサービス提供」の言葉を額に入れ玄関の見やすい場所に明示している。前回の外部評価で要改善とされていた点を見直したものである。	
3	4	○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書・重要事項説明書で入居者の権利・義務を入居者及び家族に説明し同意を得たうえで捺印をもらっている。	契約書の説明の同意をより明確にするために、割印するとよいのではないか。
		2. 運営理念の啓発					
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)	○			家族宛にホームだより「まどい新聞」を発行、家族会を開催しているほか、ホームページ、在宅介護支援センターの広報誌で地域に運営理念が理解されるように啓発に努めている。	
運営理念 4項目中 計			4	0	0		
		II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			玄関までの通路がスロープになっており、両側に手すりが付き、車イスがゆったりと安心して通れる。玄関内にベンチがあり、1本の立ち上がりバーが上下動作をスムーズにしている。	
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			時節柄、職員手作りのクリスマスツリーが飾られていた。生活空間は広くゆったりとくつろげるスペースがある。木の温もりが感じられ、家庭的で和める雰囲気である。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			1階には、腰が低い椅子、2階には、ソファ、テーブル、椅子がセットしており、自由にくつろげる。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			部屋はすべて個室で、1階は洋室、2階は和室がある。部屋には家族の写真や手作りの手芸が飾られ、使い慣れた家具が持ち込まれている。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			階段に滑り止めと手すりが設置されている。浴槽にも滑り止め、入居者の身体機能に合わせて立ち上がりバーが設置されており、安全への配慮がされている。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をごさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			各部屋のドアが色分けされている。さらにクリスマスリースをかけるなど、場所の間違いやわからないことでの混乱を防ぐ工夫をしている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			テレビ、カラオケの音は職員が声かけしてから、調整している。高い建物と隣接し、日当たりが弱い自然光を多く取り入れ、適度な明るさが保たれる工夫がなされている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			毎日職員が時間で窓を開けて換気している。室内の空調は入居者個人個人の申し出によって対応しているため、適切な温度に保たれている。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			前回の外部評価で改善すべき点を受け、手作りで季節感ある、大きな日めくりカレンダーをかけている。文字も大きく目線の高さで理解しやすい。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			職員と一緒に掃除や食事の準備、後片付けなどの役割分担をして、人の役に立つことを喜んでいる。ベランダでトマト、ナス、ピーマンを育て園芸を楽しんでいる。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			入居するときに、今までの生活歴の聞きとりをして入居者一人ひとりの現状を踏まえたケア計画が作成されている。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			月1回のチーム会議の他、随時カンファレンスを行って情報の共有化が図られている。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。		○		作成した介護計画は、家族の訪問時に確認してもらっているが、計画においてはホームにお任せの家族の方が多い。	家族が訪問してきた時や、介護計画の見直し時などに家族の意向を引き出し、介護計画への積極的参加を促してほしい。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画は日々のケアの中で見直され、状態の変化に応じ適宜プラン変更されケアに活かされている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			フリータイム表を作成し、爪切り、シーツ交換など個別の状態がわかりやすく記録されている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。		○		申し送り簿が作成され記入されているが職員全員に伝わっているかどうか確認できない。	申し送り簿にチェック欄をもうけ、申し送りが適切に伝わるシステムを構築してほしい。
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月1回定期的に、また緊急時にはその都度会議が実施され、意見交換がされている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			5	2	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は必ず肯定を心がけている。土地の方言を取り入れて話し、「〇〇さん」と親しみをこめて声かけしている。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			日常、入居者に物事を依頼するとき、臨機応変に、弟子入りタイプ「やり方を教えてください」と友達タイプ「おもしろいから一緒にしましょうよ」とやさしい言葉で使いわけている。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			家族から生活歴、職歴、得手、不得手などの過去を伝えてもらい、ケアに活かしている。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			職員が急がせずスローペースで合わせ、さりげなく対応している。散歩などは、入居者が好きなときにしてもらっている。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			月1回の自炊をしている。自分たちで食べたい食事の献立を決め、スーパーで買い出しをして、調理までを行い旬の味覚を堪能している。	
27	35	○一人でもできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			調査訪問時、「寒いから着替える」と自室に戻った入居者に、手や口を出さずに見守っていた。自立支援につながる、その人らしい、日常の暮らしを支える環境づくりを心がけている。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束はしていない。新人研修時にホームの方針を職員に徹底周知している。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			施錠は原則として行わない。深夜のみ、誤って階段からの転倒を防止するために階段通路のドアのみ施錠している。	
介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号	外部	自己	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
			(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43		○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			個々の好みの湯飲み茶碗や箸を使用している。壊れたときは、一緒に買い物に行き本人の希望に合わせた食器を買いそろえている。	
31	44		○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			食事は隣接のケアハウスから運んでおり、ご飯とみそ汁はグループホームで入居者と一緒に作っている。好みに合わせて、盛りつけも工夫されている。	
32	45		○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			献立ごとに栄養価、カロリー、タンパク質、脂質、食塩の相当量が書き込まれ、栄養士による専門的なチェックがなされている。	
33	47		○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員が食べ方の混乱しやすい入居者の隣に座り、食べやすいようにお皿の移動をし、サポートを行っている。みそ汁も身体機能低下に合わせ取っ手付きの汁碗を使用して、食べこぼしに配慮している。	
			2) 排泄					
34	48		○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			おむつの使用者は日中1名で夜間は3名。トイレが職員用と入居者用とに別れ計5ヶ所ある。使用中を明かりで知らせている。時間でトイレ誘導のタイミングを図り支援している。	
35	50		○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			2階の自室まで階段の昇降が可能な方が多く、自立している。室内は杖歩行、外出が車椅子という方にもさりげなく排泄の声かけをしている。	
			3) 入浴					
36	53		○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望に合わせて、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入居者全員の入浴支援を業務日誌に記載している。	入居者自身の気づきのためにも浴室内の鏡の設置をするとよいのではないかと。
			4) 整容					
37	56		○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			一人ひとりの希望に合わせて訪問美容師も利用できるが、家族との連携がとれ、なじみの美容室にも行かれるように支援している。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			全員が女性で、おしゃれには関心がある。整容のみだれや汚れはさりげなくカバーしている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			一人ひとりの生活のリズムを把握している。目覚めたときが朝、という状態の入居者にはお茶を用意して話し相手になっている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			金銭の管理を希望する入居者には、家族と相談をし管理方法を決め、財布に少額を入れ渡している。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			理学療法士の指導のもと、ホーム独自の(いきいき らくらく)体操を入居者は楽しみにしている。入居者の得意とするものに役割分担をしてそれぞれ楽しみを見い出せるよう、意欲を引き出すように職員は支援している。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			連携施設の病院があり、いつでも迅速に対応可能となっている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			医療機関と連携している。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			年1回定期的に連携施設の病院で健康診断を受けている。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			廃用症候群の発生や進行を防ぐため、ラジオ体操を毎日行っている。必要に応じ個別に日2回、足のマッサージを職員がしている。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			入居者同士の相性を把握して席替えを行っている。また、トラブルの原因を追及し再発防止に努めている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			食後の口腔ケアは居室で行っている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			一人ひとりの薬の服用をファイルし、薬名、説明シートをケース記録に綴じてある。食後個別に薬を手渡しして服用を確認している。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			緊急時におけるマニュアルがあり、嘔吐、吐血、転倒、誤嚥などの多様な症状に対応するための体制ができています。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			消毒液での手洗い、外出時のうがいなどを実施している。職員は予防と早期発見の学習や研修を行っている。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
3. 入居者の地域での生活の支援							
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			まどい新聞にいきいきした入居者の写真が掲載されている。ドライブ、花火大会、ぶどう狩りなど季節に合わせた外出が行われている。	家族と一緒にの外出が少ないので、外出時に家族とともに楽しめる機会を作るとよいのではないかな。
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
4. 入居者と家族との交流支援							
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			清潔な個室、または談話室どちらでも面会は自由で、アットホームな雰囲気があり、家族の満足度も高い。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
IV 運営体制 1. 事業の統合性							
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			責任者は、相談できる体制にあり、職員とともに熱意を持ち、認知症ケアに取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			入居者の受け入れは、職員面談をし、ケースカンファレンスを行っている。	
2. 職員の確保・育成							
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		○		勤務ローテーションの中に、遅出、夜勤、早出があるが、1人での勤務拘束時間が長い。利用者、家族の満足度が高い反面、職員の負担は大きいのではないかな。	人材確保は大きな課題であるとホームとしても認識を持っているので、検討が望まれる。
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			採用時の新人研修に引き続き1年以内にフォローアップ研修を行い、実技の試験もされている。認知症の基礎課程の研修も希望者が受講している。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			職員相互の親睦がある。また、悩みを話せる人もいる。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			入居者に必ずホームを見学してもらい、職員とも面談をし、職員間でケースカンファレンスを行い、十分に検討したうえで決定している。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			在宅からターミナルケアまでトータルで退居後の支援ができる体制がある。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			殺菌、消毒、整理、清掃は定期的に行っている。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			保管場所、管理方法がきちんと取り決められ管理がなされている。包丁や洗剤は鍵のかかる保管場所に置いてある。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○			事故報告書を作成し、即カンファレンスを開き再発防止に取り組んでいる。今後活かすため、記述内容も細かく記入されている。	
内部の運営体制 10項目中 計			9	1	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			書類は開示できるように整理されており、要望があれば積極的に情報提供をしている。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えていく。		○		苦情解決の体制を整え、窓口を開いているが家族には十分伝え切れていない。第三者への相談、苦情の体制が弱い。	家族への十分な周知の必要性についてはホームでも課題として認識されているので、今後の対応に期待したい。
情報・相談・苦情 2項目中 計			1	1	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号	外部	自己	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
7. ホームと家族との交流								
65	122		○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族会を開催して悩みや意見、要望などを引き出す働きかけをしている。訪問時スタッフが温かな笑顔で出迎えてくれる。	
66	123		○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○			ホームビデオを作成し、入居者のエピソード画面や1日の生活スタイルを撮影し日頃の生活状況を家族へ伝えるようにしている。	
67	126		○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的とその出納を明らかにしている。	○			家族に出納帳のコピーを送付している。領収書も添付され内容が良くわかり安心できる。	
ホームと家族との交流 3項目中 計				3	0	0		
8. ホームと地域との交流								
68	127		○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			法人全体を通して、市町村との連絡を密にとっている。家族介護教室は法人内の在宅介護支援センターで行っている。	
69	130		○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			幼稚園児の訪問があり、楽しく交流している。	より身近な地域の人たちとの日常的な交流ができるよう、努力してほしい。
70	132		○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			同敷地内の施設との連携はとれて行事は一緒に行っているが、独自に地域の関係を深める機会が少ない。	地域との協働の発想、地域への働きかけの課題はホームとして認識しているので、今後の具体的な取り組みが期待される。
71	133		○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○			ボランティアは、認知症への理解度や土地柄（顔見知りが多い）によるプライバシー保護のために積極的に受け入れていない。	地域の方に働きかけを行っていきたいという意向はあり、検討中であるので、計画実行に期待したい。
ホームと地域との交流 4項目中 計				2	2	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。